

本市の GIGA スクール構想の実現状況をお知らせします。

Q1 どんな構想なのですか？

A1 文部科学省のリーフレットによると「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、**特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境**を実現する。」「これまでの我が国の教育実践と最先端の ICT のベストミックスを図ることにより、**教師・児童生徒の力を最大限に引き出す**。」とされています。

これからの高度情報社会を生き抜くために必要な情報活用能力や創造性を個々の子供たちに合った形で身につけさせる環境を整える構想とも言えます。

Q2 市の教育との関連は？

A2 本市第三期教育振興基本計画(令和2年度～令和6年度)の中で、「未来を切り拓く子どもの育成」の1つに、「**ICTを活用した教育の推進**」を掲げています。超スマート社会の到来に向け、社会の転換期を乗り越え生き抜けるよう、**夢と志を持ち、主体的に判断ができる人材を育むために、必要かつ有効な教育環境**の整備です。

Q3 タブレット端末はいつから持ち帰れますか？

A3 令和3年度4月からの本格運用開始となりましたが、タブレットの持ち帰りは2学期からを予定しています。(諸準備により遅れる場合があります。)

時期	4月～	～1学期末	2学期～
	使用に慣れる期間		使用を工夫する期間
予定	小・中学校で本格運用開始 ※家庭での Wi-fi 環境調査	※モデル校(志々伎小、南部中)を中心に持ち帰りの試行	家庭への持ち帰りの試行 ※準備・環境が整い次第 ※常時ではありません

Q4 一人一台端末になったら、何が変わるのですか？

A4 子供たちの「学びたい」を支援する学習道具が増えることになり、特に授業の際に次のようなことができるようになります。



	「一人一台端末」ではない環境		「一人一台端末」の環境
一斉学習	● 教材などのテレビモニターでの拡大提示により子供の興味・関心・意欲が高まる。	→ 学びの深化	● 教師は授業中に子供たち一人一人の反応を把握し、それを踏まえた、 双方向型の一斉授業 が可能になる。 ● 子供は自分の考え(画面)を友達に見せながら発表できる。
個別学習	● 全員が同時に同じ内容を学習する。 ● 教師はプリント等で可能な限り個別に対応する。	→ 学びの転換	● 各人が 同時に別々の内容を学習 することができる。 ● 個人の 学習履歴を記録 し、次に生かすことができる。 ● 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能となる。
協働学習	● 意見を発表する子供が限られる。	→ 学びの転換	● 一人一人が 互いの考えをリアルタイムで共有 できる。 ● 子供同士で 双方向の意見交換 が可能になる。 ● 各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられ、学習活動が充実する。

また、タブレット端末は、マイク、カメラを装備していますので、英語の発音を録音して確かめたり、植物の写真を撮ってレポートを作成したりすることが簡単にできます。オンライン授業も可能です。

Google Workspace for Education の利用について 平戸市教育委員会

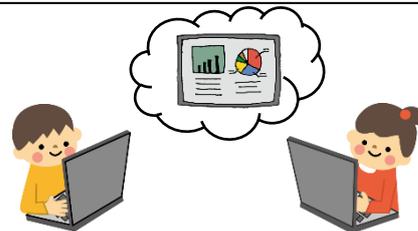
Google Workspace for Education についてお知らせします。

Q1 どんなものなのですか？

A1 Google 社が教育機関向けに無償で提供しているクラウド型学習支援ツールです。

データやアプリケーションは、クラウド上にある Google 社のサーバに保存されており、各自がそこに接続して学習します。

アプリケーションには、同時編集で協働学習を支援するワープロや表計算、図形描画、プレゼンテーション、ホワイトボードの機能を有するものや、仮想の学級で教師と子供がコミュニケーションを図る Classroom、オンラインビデオ会議 Meet などがあり、各機能が連携して学習を効果的に支援してくれます。



Q2 仮想の学級 Classroom では、どんなことができるのですか？

A2 学級担任や教科担任が授業の部屋を設定し、そこに学級の子供たちが所属します。

教師は、この Classroom の中で、資料や学習課題、小テスト、アンケートなどを配付し、子供たちは資料等を受け取り、画面で確認します。

現在、紙のプリントを配付していますが、これを電子データで配付するイメージです。電子データなので、カラーで配付することができ、必要な部分は各自が拡大して確認することもできます。データは無制限で保存できるため、いつでも見返すことができます。



Classroom



Google ドライブ



Forms

子供は、学習課題や小テストに考えや答えを書き込み、送信することで提出したことになります。小テストなどは、回答状況によって解説が表示されたり1ステップ上の問題が表示されたりします。

Classroom と連動している Meet は、「Meet に参加」のボタンを押すだけで Classroom 内の教師と子供がビデオでつながります。画面の中で意見交換したり発表したりすることができます。



Google Meet

また、ストリームというページでは、学級に対する提案や、教師の問いかけへの返事を投稿したり、授業中に教師だけに質問を送ったりすることができます。

Q3 授業はすべて Google Workspace で行うのですか？

A3 Google Workspace に限らず、1回の授業の中で ICT を使う割合は 2 割程度と言われています。それは、ICT は、鉛筆、赤ペン、消しゴム、ノートなどと同じ、子供たちの学習を支援する道具だからです。

例えば、「教科書 p.5 の挿絵を見てみましょう」が「Classroom に送った写真を見てみましょう」に替わるなど、教師が Google Workspace のアプリを使った方が効果的だと考える活動の際に使用します。

今回整備する端末 ChromeBook は、学習に特化された端末で、蓋を開いたら 7~10 秒で起動します。授業中の使用しない場面では蓋を閉じ、必要なときに開いて使うことがストレスなくできるようになっています。

どのような使い方がこれまでの指導とのベストミックスなのか、これから教師が研究を進めていきます。

Q4 YouTube の閲覧は可能ですか？

A4 YouTube の閲覧は制限しています。ただし、文科省のページ等学習に必要な動画は許可しています。

また、教師が閲覧させたい動画だけを閲覧できるように制限することもできます。

Q5 子供が画像等を勝手に発信することはないでしょうか？

A5 未然防止のため、SNS 等の利用について制限しています。また、情報モラルや人的な情報漏洩防止について各学校でこれまで以上に丁寧に指導し、社会に出てから正しい情報活用ができる力を育てます。